



**幾原 雄一 (IKUHARA Yuichi)**

東京大学大学院工学系研究科教授

九州大学工学部卒業、  
同大学院総合理工学研究科博士課程修了、  
工学博士。

---

財団法人ファインセラミックスセンター (JFCC) 研究員、米国ケースウエスタンリザーブ大学材料科学科客員助教授、JFCC 構造解析部統括部長代理・主管研究員、東京大学大学院工学研究科材料学専攻助教授を経て、2003 年より現職。JFCC ナノ構造研究所主管研究員、東北大学原子分子材料科学高等研究機構 (材料科学世界トップレベル研究拠点)・教授・主任研究員、京都大学構造材料元素戦略拠点教授を兼任。2007 年より東京大学大学院工学系研究科総合研究機構・ナノ工学研究センター長。

専門は、結晶界面工学。主にセラミックスなど機能・構造材料の粒界や界面の原子・電子構造を最先端の収差補正走査透過電子顕微鏡法で解析するとともに、第一原理計算を駆使して、材料機能の発現機構の解明を行っている。また、得られた結果をベースにして、新規な機能材料の設計や実用材料の開発を行っている。2007 年より文部科学省特定領域研究「機能元素のナノ材料科学」の領域代表を努めた後、現在は文部科学省のナノテクノロジー・プラットフォーム事業の実施責任者などを務めている。主な著者に、セラミック材料の物理 (日刊工業新聞社)、透過電子顕微鏡 (日本表面科学会編、丸善株式会社)、ナノ材料解析の実際 (講談社) などがある。これまでに Nature や Science をはじめ約 750 報の原著論文を発表するとともに、約 250 件以上の国際会議での基調講演・招待講演を行っている。

主な受賞は、紫綬褒章(2016)、米国セラミックス学会サスモン賞(2015)、世界セラミックスアカデミー会員(2014)、文部科学大臣表彰科学技術賞(2013 年)、米国セラミックス学会フェロー (2011 年)、フンボルト賞 (独アレクサンダー・フォンフンボルト財団) (2010 年)、本多フロンティア賞(2010 年)、日本顕微鏡学会瀬藤賞(2010 年)、日本金属学会学術功労賞(2006 年)、日本セラミックス協会学術賞(2001 年)など多数。日本学術会議連携会員。